

## 研究室旅行 2010 in 南京

大陸の熱気と躍動を感じた4日間

### Lab. Trip 2010 in Nanjing

隔年で開催される研究室旅行。今回は10月15日から18日の日程で中国・南京を訪れ、東南大学建築学院との交流や南京市街地の見学等、盛りだくさんのスケジュールで充実した4日間を過ごしてきました！

From 15th to 18th on October, we visited Southeast Univ., Nanjing, China as the Lab.Trip 2010.



▲お世話になった東南大学の先生方、学生の皆さんと研究室メンバーで記念撮影

## 研究室旅行を終えて

Through with the Lab.trip

南京是一个我生活了将近3年的城市，而且是硕士论文的主要研究对象。此次借研究室旅行的机会能够重返南京，心情十分复杂。就好像是去拜访旧友，眼前不断浮现往日的画面，而心中又有些忐忑不安，不知期间变化和近况如何。另一方面，是因为担任了联系员的角色，对于能否顺利地组织好这次旅行，也有些担忧，尤其是在到访之前日中关系的一系列戏剧性的变化，也导致了一些小问题。但是在东南大学王建国院长、董卫教授、周琦教授以及研究室成员的大力帮助下，我们才得以顺利成行。

此行个人的体会是，能在异国旅行时观察和试着提出问题，并通过讨论寻求解答的这个过程，对于一个学习城市的学生是非常有帮助的。这不仅对于专业视野的培养，而且也能够促进研究思维的形成。也许这也就是西村老师设置研究室旅行这一个活动的初衷吧。

## 圧倒的スケール感

Over scaled city

M2 黒川 佑人

今回の研究室旅行での僕の旅程は上海-南京-北京でした。各都市を歩き特に感じたことは「オーバースケール」と「混在」です。前者は上海万博、上海環球金融中心に代表される高層ビル、立ち並ぶ団地、オリンピックスタジアム、紫禁城など挙げたらきりがありませんが、そのスケールに圧倒され続けました。また後者の「混

在」は一つの建築や界隈が有する多機能性などがありました。

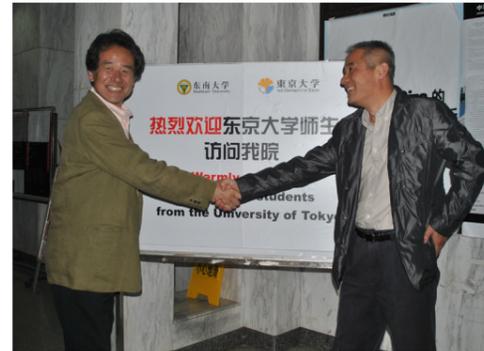
アジアの都市計画がアジアという似通った文化圏の中で議論され始めてきている中、やはり日本との「圧倒的な違い」を常に意識した上で歩みよって考えるべきだと全身で（乾燥した空気と寒さにより帰国後に風邪をひいたことも含めて笑）感じる事が出来ました。



▲色とりどりの団地が広がる上海

Nanjing is a city, where I lived for three years and which was also the main subject of my Master's thesis. My feelings were therefore complicated, when I learned that our Lab would travel to Nanjing this year. In a way it is like re-visiting an old friend, with so many beautiful memories evolving in front of my inner eye, while simultaneously worrying that the city might have changed not for the better. Since I was also responsible for the interpretation during the journey, I couldn't feel at ease until our return to Japan. However, the assistance of teachers and students from Southeast University was of great help and made the Nanjing trip a fruitful one. Because of my special role, I had the chance to closely observe the reactions of both Japanese as well as Chinese students. I realised the importance of field visits at unfamiliar places for our training as researchers and in order to raise critical questions. This must be why our Lab established the tradition of overseas journeys in alternating years.

D2 傅 舒蘭



▲熱烈な歓迎に笑顔で握手を交わす西村先生

### Schedule スケジュール

- 10/15 Fri. 南京に現地集合  
東南大学にて交流会  
両大学の活動紹介
- 16 Sat. Historical site visit  
(明孝陵、玄武湖、甘熙故居、夫子廟 etc.)  
西村先生によるレクチャー  
研究室新入生歓迎会
- 17 Sun. Modern site visit  
(朗诗绿色街区、青石街、總統府 etc.)
- 18 Mon. 全員が南京について発表  
昼食後、現地解散



## Nanjing 南京

明の時代に首都として栄え、首都が北京に移った後も明朝誕生の地として発展しました。古くは「金陵」とも呼ばれ、現在は江蘇省の省都です。人口約740万人の大都市で地下鉄や住宅建設により現在、郊外へと拡大しています。詩人や画家の集まる文化的中心でもあります。

### SEU-ARCH 東南大学建築学院

東南大学建築学院は1927年中国初の建築学科として設立されました。学生は海外の大学とも積極的にWSやスタジオを行っており、我が都市デザイン研究室のD2傅さんとタリックさんの出身校でもあります。ちなみに中国語での大学の略称は我々と同じ「東大」！

## 古都の歴史に触れた2日間

Experience of historic sites in Nanjing

D2 パンノイ ナッタボン

This year students and teachers of the Urban Design Laboratory travelled to Nanjing between October 15th and 18th, where we enjoyed the hospitality of the School of Architecture at the Southeast University. In Nanjing we visited historical quarters as well as redevelopment areas and learned that also in Chinese Cities the conservation of cultural assets is recognised as an important issue. Through our discussions with Chinese students and professors we understood that the challenges, which rapidly developing Chinese cities face, are of unprecedented magnitude. Western urban theories as well as practical prescriptions might be therefore not applicable and, instead, Chinese and Asian planners need to develop own solutions for dealing with their distinctive local problems.



▲周辺の開発圧力を感じた市街地



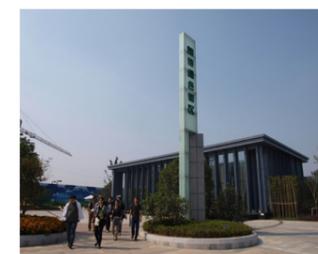
▲リノベーション計画図面を見つめる

## 南京を論じ合った最終日

Discuss about Nanjing city with all members

text\_suzuki

中国のすき焼き、マッサージ、クラブを満喫し帰ってきたのは深夜1時。そこからプレゼンの準備を始めましたが、やはり初めて来た都市というのは刺激を与えてくれるもので、意外にも頭は働きました。プレゼンのテーマは南京での発見に関してですが、海外のいくつかの都市を旅してきた後だったためか、どうも南京だけをじっくり考えるということは出来ず、南京はこうだけどあそこはこうだった、そう考えるとあそこはあだった、など一向に収束しないまま時間は過ぎていきました。それでも、新しい都市を訪れることで少しずつ自分の経験が整理されていく感覚を覚えました。世界にはまだまだ自分の知らない都市があり、そこに行くたびに成長できる。そんなことを思った南京の最後の夜(朝)でした。



▲マンションモデルルームを見学



▲南京について熱い議論が交わされた

# 中国二大都市も満喫

## Side trip to Shanghai & Beijing

せっかく訪れた中国。南京を離れた後も、ほとんどのメンバーが上海や北京へと足を伸ばして旅行を楽しみました。

### in Shanghai 上海



▲田子坊でおばあさんにヒアリング!



▲広々としたバンドで夜を満喫

上海で驚いたことは何と言っても人の多さ、活気、そして急成長を遂げるまちのパワーでした。その中でも川沿いのバンド地区の夜景と田子坊周辺のまち歩きが印象に残りました。

バンドでは西村先生に上海租界についての説明を受けながらライトアップされた建造物群を眺めるといった贅沢な体験をさせて頂きました。

古い住宅をリノベーションした田子坊や同潤会アパートのような戦前の西洋風住宅の並ぶ周辺地区では都市デザイン研の十八番、まち歩きパワーを存分に発揮し、現地のおばあちゃんとの交流まで楽しめました。

このような楽しい旅行の計画を一手に引き受け、現地でも自由気ままに動き回る僕たち (M1) を統率し、安全で快適な旅にしてくれた李峰浩さんに心から感謝です!

### in Beijing 北京



▲極寒だった万里の長城



▲圧倒的な軸線を感じた紫禁城

南京でのプログラム終了後、M2 阿部、神原、黒川、李、M1 矢吹の5名は寝台列車に飛び乗り、北へ約1200km、首都北京へと向かいました。

南京とは違って変わり冬の様な厳しい寒さの中、天安門広場や紫禁城、保存運動が進む胡同地区、万里の長城といまだ活気が絶えないオリンピック公園、CCTV、芸術の拠点として再生された798工場地区、世界最大級の首都国際空港など、北京出身の李さんの案内により様々な場所を巡る事が出来ました。

巨大開発が進み、圧倒的な速さで成長する一方で、広大な国土の土地利用の方針や規制の整備、増加する人口への対策等、中国の抱える課題も多々ある事を直に知る事ができ、上海-南京-北京を通し、都市の多様性と共に都市計画の必要性が多分に感じられた有意義な旅行となりました。

M1 李峰浩 带着丰硕的成果结束了对南京的访问，我们开始了上海的石库门里弄探寻之旅。

田子坊是一片有着七八十年房龄的老城厢石库门，弄堂才400多米。这里曾经是最普通的老上海弄堂，四五户人家合用一个灶间、木楼梯咯咯作响，弄堂里摆满了自行车，抬头便是密密麻麻交织缠绕的电线和晒衣架，无处不散发着浓郁的生活气息……在这里，生活、艺术、商业绝妙得融合为一体。即便是挂满衣服的晒衣架，在田子坊里成为了一个不可缺少的元素。

随着时间的流逝，很多有着浓郁老上海特色的弄堂，被拆迁建起摩天高楼。幸好，田子坊成了上海第一个享受“社会资源配置利用”政策的老厢，并且因为它浓厚的老上海情调，让一群文艺人为之流连。田子坊在这一片高速发展的中心地带，找到了属于自己的独特生存模式。

插曲：石库门探寻之旅的途中，我们遇到了一位当地的老奶奶，虽然是初次见面，老人亲切地带我们参观了有名的步高里石库门建筑。还是那句话：温情无国界。



▲生活を感じられるローカルな境界



▲15年間で出現した高層ビル群

M2 李璠 10月19日至21日，我与M2的阿部、黒川和神原与M1的矢吹一同经历了“瑟瑟发抖”的北京三日游。旅程始于15世纪建造的紫禁城，经历了景山公园、cctv新址、万里长城、奥林匹克公园、798工厂，终于Norman Foster设计的北京国际机场3号航站楼。短暂的旅程恰好浓缩了她从皇城开始，经历了社会主义工业城市计划再发展至今的历程。

皇城的红墙绿瓦与鸟巢的钢架结构构成了截然不同的风景，然而跨越了历史未曾改变的则是这样一个内陆国家的土地使用习惯。我们自小就从教科书上学到“中国地大物博”，然而旷大的轴线、广场与建筑是否真的完全发挥了其所占有土地的价值仍旧是一个疑问。与日本同学同行，让我能够从另一个的角度重新观察这个自己生活了20年的城市，以一种更加批判的方式思考她的过去与未来。



▲夜の胡同地区



▲巨大だが美しい首都国際空港

# 海外留学体験記

## Exchange program in Stockholm & London

スウェーデンとイギリスでの留学体験プログラムに当研究室から2名が参加しました。

M2 神原 康介 9月21日から29日まで工学系研究科国際交流室企画の第一回海外協定校訪問プログラムを利用して、スウェーデン王立工科大学(通称:KTH ストックホルム)とインペリアルカレッジロンドン(ロンドン)を訪問する短期留学体験をしてきました。

現地では基本的に各々、学生のアパートへ泊まらせてもらいつつ、講義やスタジオの授業を見たりと、留学した時と同じような生活を送りました。

授業で日本と違ったのは議論の多さでした。講義でもグループワークが積極的に行われ、教授も学生も発言する機会の多い双方向の授業が展開されていました。留学生は多数見られましたが、アジアからの学生の多くは中国や韓国または東南アジア出身の学生で日本人はとても少なく感じました。

M1 西村 裕美 スウェーデン王立工科大学では、現地学生宅にホームステイし、実際に講義を受け、設計演習を見学しました。設計演習ではエスキスを見学させて頂いたのですが、先生と学生の距離が非常に近く、思わず一緒に受けたくくなるような授業でした。また、食堂でのランチや学生バブにと、充実したキャンパスライフとなりました。(さらに、ストックホルム、ロンドンともにまち並みが非常に美しく、感銘を受けました。)

今回の体験を通じて、外国の学生とコミュニケーション出来ることの素晴らしさや楽しさを改めて実感するとともに、両大学に多くの友人を持たれたことを嬉しく思います。

留学に興味がある人は  
ぜひ第2回プログラムに参加して下さい!



▲美しいストックホルムのまちなみ



▲リラックスした様子のスタジオ



▲スウェーデン王立工科大学の学生と笑顔で記念撮影

## プロジェクト報告

### 鹿児島 KAGOSHIMA-project プロジェクト



▲大勢の職員の方々に発表



▲自転車を対象地を調査中!

8月から始まった鹿児島PJ。今回は鹿児島市役所の方々の前で中間報告会に行きました!

M1 山重 徹 10月5日から9日にかけて2回目の鹿児島PJ調査に行ってきました。これまでの調査をもとに練り上げてきた、中心市街地活性化のための約50の提案を、市役所の方々の前で中間報告会という形でプレゼンをしました。

我々の提案に対する市役所の方々のフィードバックを受けることができたと共に、今回の現地調査やヒアリング調査では、1回目の時とはまた違った鹿児島の魅力に気づくことができ、1月の最終報告会に向けた貴重な知見を得られたように思います。プロジェクトメンバーの鹿児島に対する想いも一段と高まったので、この調子で、市の発展につながる有益な提案をまとめていけるよう邁進していきたいと思っております!

## Information

### 都市デザイン研 情報化戦略進行中!

今まで紙媒体 & web 公開というかたちで研究室の情報を発信してきた都市デザイン研マガジンに加えて、満を持して研究室公式 twitter での情報配信を開始致しました! フォローのほど宜しくお願いします!!

フルネーム: Urban Design Lab  
ユーザー名: UDL\_UT

なお、ツイートの検索は #UTUDL で出来ます。(12/15 更新 旧 #TUUDL) 今後は twitter だけでなく、ホームページのリニューアルや blog でのマガジン English version の配信も行なっていきたいと計画です。お楽しみに!!

11月7日	浅草PJ「第2回 光月工房」開催
11月12日	2010年度第9回研究室会議 @8階会議室
11月13~14日	足助PJ 社会実験「足助うちめぐり」開催
11月15日	2010年度第10回研究室会議 @8階会議室
11月20~21日	佐原PJ「建物公開」開催

### 編集後記

前川 綾音

10月は研究室旅行のほか、台湾での発表や足助訪問など盛りだくさんで、気づけば東京にほとんどいないという生活を送っていました。中国や台湾に行っていたことですが、本当に街がたくさんの人で溢れているのにびっくりしました。座ったり、なにかを売ったり食ったり・・・日本の生活の中ではときにお行儀が悪く思えることもありますが、誰もがまちの屋外空間を使いこなしている!とちょっと感動しました。海外に行かなくなきやわらかないことがたくさんあるなあと改めて気がついた一ヶ月でした。

最後に、11月は私の関わっている2つのPJが企画を実施します! まず11月7日(日)には材木問屋が集まる東京都台東区千束入谷地区にて木工企画「光月工房」を開催し、子供達と一緒に材木で秘密基地を作ります。また、11月13日(土)、14日(日)には愛知県豊田市足助地区で社会実験を行います。20軒あまりのお宅にご協力いただき、土間や中庭など生活空間の中の素敵な場所を公開していただく予定です。ぜひ、お越し下さい。